

私の美術館体験

手書きする

学生番号

氏名

8241

小野海音

美術館名
いくつでも

(1) 札幌芸術の森 (2) 北海道立近代美術館

一行目

(1) 私の一番身近な美術館は札幌芸術の森である。家から一番近く、小学生の頃から遠足などで行っていた為、とても親しみがあ

る。芸術の森の作品の中でも私の印象に深く根付いているものは、野外美術館というもので、芝生の上や森の中に設置されている造形作品だ。初めてそれを見た当時、小学生の私には美術作品としてそれを見ることは無く、全体としてそこは広い森の中に色々な立体が置かれており、その作品の近くで遊んだりお昼ご飯を食べたりしながらくつろげる不思議な空間という認識だったと思う。しかし、今その野外美術館を考えると、作品の横でお昼食をたべたりお風呂で派手に出かけることでは無い、それだけでいいほど、そこにある作品達はすばらしく自然と完全に調和していて、安らぎのある空間になっているのだと思う。

また、芸術の森では作品展示だけでなく、ワークショップも定期的に行っており、私が小学生の頃には機織り物でコースターを作ったことがある。機織りという文化と珍しい装置に触れることで、作ることの喜びや楽しさ、新鮮さを味わうことができた。

(2) 高校生になつてからは近代美術館へよく行くようになった。高校で美術史の勉強をして、有名画家を知っており、自分の見たい画家の作品展示があの時はそこへ赴くようになった。特に横山大観の作品展示はとても面白く、1周するのに2時間以上はかかった。近代美術館は街中にあり、アクセスが良く気軽に行きやすい。また、館内はとても静かでゆっくり鑑賞ができる。

● 芸術の森美術館は自然の中に囲まれ、子供から大人まで楽しめる美術館だ。近代美術館は街中にあり、各地から人が訪れて、少し賑やかな雰囲気をもっている。この2箇所の美術館は対照的であるが、どちらも私にとって楽しみの創造の場であり、本物の展示作品に触れることで、作者とその背景の想像を広げたり、来館者としてその空間を味わい、安らぐことができ、美術館に対して、夢中になれる場所だと私は思う。

提出日: 5月28日

私の美術館体験

手書きする

学生番号

氏名

8 2 4 2

嶋崎 楓花

美術館名
いくつでも

札幌宮の森美術館

1行目

私が今までで一番記憶に残っている美術館での展示が、札幌宮の森美術館での森山大道展です。宮の森美術館は国道沿いにある教会に隣接した美術館で、小さな入り口が裏側にあるようなところ。私はその遠慮がちな雰囲気が好きで、何度も足を運んでいます。森山大道展は、私が受験生になる時に行きました。進路を決めるのに思い悩んでいたときは、自分は一体何かしたいんだろうと永遠と頭で考えていました。そんな時に父が連れて行ってくれたのが、この美術館です。もともと写真が好きだったので、この展覧会を見に行きたいと思っていて、そこで初めて宮の森美術館に行きました。初めて行ったときは、どこが入口だかもわからないようなところでした。コンクリートの白い壁一面に、銀色の重厚な戸が一枚あるだけで、立て看板がぽつんと置いてあり、とても雰囲気があふれました。入ってみると内観も真白です。一階と二階に小さい部屋があります。森山大道の写真は、やはり白黒写真が格好良かったです。シャッターを押す瞬間が、人とは違う気がしました。私はきれいな色がたくさん混ざったフィルムカメラの写真が好きなのに、森山大道の写真はモノクロで、何故その場所でその構図でその物を撮ったのか理解できなかったことが、その時魅力に感じました。お客さんはほとんどおらず、小さな部屋でモノクロの写真に囲まれる空間が好きだと思いました。大きな美術館には人が大勢いて、学芸員がいて、何となく急がされる気がしていたのですが、この小さな美術館には自分の空間が与えられ自分の時間が流れ、作品を見て様々なことを考えられる余裕ができます。私はそれで、時間日常を大切にしたいと感じ、美術はおもしろくて好きだと再認識することができました。この体験は、何かを見つけたい、何かを知りたいと思う時にはインターネットばかりに頼るのではなく、自ら訪れて感じることで得るものがあるということも学んで体験でした。

美術館というのは、作品が展示される場所というだけでなく、

(続けて裏面に書いても良いです)

その人の寛識や時間を作り出す場所だと思っています。

日常から一歩離れ、自分を見つめ直すことができる場所
であると感じました。

提出日：5月28日

私の美術館体験

学生番号

氏名

8 2 4 3

高松 波那

手書きする

美術館名
いくつでも

道立近代美術館
道立旭川美術館

道立近代美術館で鑑賞した展覧会で印象に残っているものは2つあります。まず1つ目はアンギアーリの戦い展です。レオナルド・ダヴィンチが描いた未完の作品で、様々な画家たちが色々な考察をしてその続きを描いていたりしたので多種多様なアンギアーリの戦いを鑑賞することができました。有名な人が作ったのか覚えていませんが、アンギアーリの戦いの模型があったのがおもしろいと思いました。2つ目は大原美術館展(?)です。児島虎次郎が描いた作品に加えて彼がヨーロッパで買い集めた作品を鑑賞しました。虎次郎と孫三郎の関係とそこにあった絆の話を知り、それを見つめての鑑賞だったので2人の思い出を見ているような感覚になりました。虎次郎の作品は光の具合がとてもきれいで、ゆかたを着た女性の3枚くらいの大きな絵画がとても印象的でした。あと、この展覧会のために特別に作られた「びじゅ千uyến」というNHKの番組に出ている井上涼さんによる、虎次郎と孫三郎のうたもあったので、とてもおもしろかった記憶があります。道立旭川美術館で鑑賞した展覧会は猫展(?)と彫刻展(?)展覧会の名前がうろ覚えでもうしわけないのですがこの2つです。猫展ではそのまま猫にもとづいた作品だけでなく油絵やアクリル、浮世絵や立体と様々な形で猫がいて猫好きな私としてはとても心踊る展示でした。私は最後の方にあった穴の中をのぞきこんでいる黒猫の立体作品がとても印象的でした。次に彫刻の展覧会

(続けて裏面に書いても良いです)

で、この展覧会にはジャコポ・ロレンツォがバラバラでファ
ンタジーな話に出た、小さい展覧会ではありません。
たが、とても売れたものだったと思います。
私はその中にあった麒麟をモチーフにした作
品が好きで、木彫りだったので、スベスベ
した肌触りな上、細かくたてがみなどを彫って
いて、今にも動き出しそうな作品でした。あと
目の中がビー玉みたいにキラキラしていて
とてもキレイでした。木彫りで、どうやら埋
め込んだのか疑問に持ちましたが、説明を聞き
てもよくわかりなかつた覚えがあります。
私が今まで行った展覧会は全部高校の美術部
で行ったものなので、これからは自分から積
極的に行くと思います。

提出日：5月28日

私の美術館体験

手書きする

学生番号

氏名

8244

佐々木 文峰

美術館名
いくつでも

近代美術館
芸術の森美術館

私は美術館に行くのが好きです。あの物静かな雰囲気と、絵画と向きあう瞬間はとても貴重なものです。美術館の中で特に頻りに行くのが近代美術館と芸術の森美術館です。この二つの美術館は、中学生の頃から何度も行っているのですが、楽しみ深いというのとは別に、それぞれ違う理由があります。近代美術館は展覧会がさう見れること、たくさんの名画を展示しているからです。最近で、いつとブリヂストン美術館展に行きました。数々の巨匠の名画を、実際に鑑賞することができ、とてもいい刺激になりました。芸術の森美術館は野外展示があるからです。天気のいいときは必ず行くようにしています。毎回同じ作品でも飽きないのは、その時により、作品の表情が変わってくるからです。晴れの日、曇りの日、昼と夕方、どんな時に行っても楽しむことができます。もちろん、幅広、分野で展覧会を承えているというのも理由の一つです。(新海誠展など)以上、これ以上を踏まえて、美術館を訪れる行動は、これからも続けるべきなことだと思います。自分が「美術」の分野にたずさわらないうち、どうしても、表現者の魂が込められた作品を「見る」ことで、普段忘れていたもの思い出すことができると思います。それに気づいた時、日常生活に新しい「発見」が見えるかもしれません。それがどんな小さなことでも、これから生きていく上で何らかの役割があるのではないのでしょうか。いままでの体験から私はそう考えています。なので私にとって美術館は「一生の友」と言えるでしょう。

(続けて裏面に書いても良いです)

私の美術館体験

手書きする

提出日： 月 日

学生番号

氏名

8246

廣森 真悠

美術館名
いくつでも

教育大旭川校書道教育研究室春季展

一行目

書道研究室繋がりで教育大旭川校書道教育研究室さんが開催された春季展という書道展に行きました。高文連全国大会出場生徒が1年目だけでも2人いるということもあり、とてもレベルの高い作品が多かったように思いました。岩見沢校の書道研究室の1年目は臨書を主に学ぶので今回の展覧会では臨書作品から鑑賞しました。線質も一定ではなく様々な表現がされていて、画数の少ない字でも単調に見えない工夫がされていたりと流れ作業のように書かれていないことが1度見ただけで分かりました。また書道には墨がしっかりと入っている“潤”と墨が入りつつもかすれている“渴”のバランスが必要なのですが、ほぼ全ての作品がかすれがありつつも黒がちゃんと目に入るような奥行きが表現されているように感じました。また初めて見るような法帖(お手本)もあり、この字形を書いてみたいというモチベーションにも繋がりました。近・現代文体の詩文書の作品もあり、それぞれ違った特徴・魅力があり、こんな表現もできるのかと感心してばかりでした。カタカナを大字にしてみたり、縦長の半紙に横書きにしてみたりと、私には思いつかないようなアイデアや難しそうだと気遣っていた書き方など学ぶべきことがたくさんありました。私は今まで詩文書を主に製作してきましたが、私の表現の幅はまだまだ狭いことに気づかされた1日となりました。旭川校書研さんとは五分校合宿という場で作品製作を一緒にできる機会があるので、またたくさんのお話を学べたらいいなと思いました。

(続けて裏面に書いても良いです)

私の美術館体験

手書きする

提出日： 月 日

学生番号

氏名

8247

吉野 茜

美術館名
いくつでも

国立新美術館

自分は普段からしつらう美術館に行くような人間ではない、
いや、別に。ほれとこのた(回も行かないとない、というほどではないのだけれど)
片手で敬えるほど、というも過言ではないレベルかもしれない。
その中でも特に印象に残っている美術館は東京の国立新美術館である。
高校2年の修学旅行で東京内でいくつかのコースに分かれて行動していたが、
JTBが行きたがる原宿コースに、国立新美術館で行われていた「グリ辰を
鑑賞に行くというルートが」3名別々に申し込みをされていたので、
当時ビチャビチャのJTBだった私は原宿に行くために国立新美術館に
行く機会も自動的になされたのでした。とはいえ、現在美術、デザイン
コースに(らぶらり)在籍している自分は昔よりグリは詩的になくとも
結構好きなので、プーイングをたまにしている情緒のないJTB旅の中にまぎれて
割と楽しみにしていた記憶がある。
まず印象に残っているのが、美術館の外観だ。近代的。キレイ。表面は
くしゃくしゃとした緑で、全面がガラスにおおわれている。緑があまりに
広場も相まって、とても明るい印象を与えられた。比較的新しい
美術館とのことで、(2007年に1期館)王様は TOKYO... といった
感じだった。
肝心のグリも、彼の作風である。まるで夢に見た世界をその王様あわせた
ような違和感満載の絵、モリザにヒゲを描き足した「遊歩心」
あふれる作品など。王様はグリといった作品のイセにも、本来のグリ
との イーゴと違う画風のものもあって、
バラエティに富んだものが沢山あって今まで以上にグリに興味をそそぐことが
できた。私がやりたかったのはグリがやっていたことに近いと感じ、それまで
私は王様と美術経験はなかったのだが、美術を学ぼうと思いいの
学校を受験するきっかけになったと今では思っている。グリ、ありがとう。
自分の意思で見に行こうとした美術館ではないのだが、その後の私に
深く影響を残したのがあるのが、グリ辰、そして国立新美術館である。
今は晴れて大学生になり、自分の時間が増えたということ、長期休暇にこそ
おもしろい、といった感じで国立新美術館に「遊歩心」に行きたーと思う。
今年こそね...♡

(続けて裏面に書いても良いです)

私の美術館体験

手書きする

提出日: 5月27日

学生番号

氏名

8249

内海優花

美術館名
いくつでも

ゴッホ展

わたしは、去年の10月にゴッホ展に行きました。
わたしは今までに何回か美術館に行ったことがありま
したが、色がきれいだなー、絵がうまいなーくらいの感想
しか持ったことがなくて、正直、あまり印象に残ってい
ません。何を観に行ったのかもあまり覚えていません。
なので、ゴッホ展も、割引券があるからと後輩に誘われ
て観に行ったので、あまり乗り気でもなかったのが正直な
ところですよ。
まず、ゴッホの絵をみて感じたことが、ものすごく大胆だ
ということですよ。特に印象に残っているのが、海が描い
てある作品です。画面がすごくボコボコしていて、波の
荒さがすごくでていると感じました。また、近くでみると、
筆の跡が残っている作品が多くて、それがあの色と相極
まって、力強さや、不思議な感覚を感じました。
去年の10月、高文連の全道大会がありました。
わたしは自分の絵に納得がいかなくて、そこでいろいろな
作品をみて、なんだかすごく悔しい気持ちになりました。
そして、自分の絵について考えました。
そういう状況でみたゴッホの絵は、とても衝撃的でした。
わたしは人物をかくのが好きで、どうしても写実に近づけま
うとしてしまい、その結果技術がとまわらないので、ボヤッ
とした絵になってしまいます。ゴッホの絵は、さっきもかいたま
うに、とても大胆で、わたしにはないものがたくさんありました。
どうしてこんなにがしがしかけるんだろう、と思いました。
そして、全道大会で悔しい思いをしたことを思い出しました。
もともと油絵をかいたことがあまりないということもあって、もっ
といろいろな表現を試みたい、絵をかきたい、と思いました。
そして、3年の秋にも関わらず、進路を就職から美術に変更
しました。それほど強い感情でした。

(続けて裏面に書いても良いです)

自分の絵をモヤモヤしていたときは、正反対なものを見て
衝撃を受けた。というのがポイントだったと思います。

また、ひとつ本当に感じたのが、わたしの場合は、
自分が絵をかいて、悩んで、そういう経験をしてから
美術館に行って、作品をみたほうが、いろいろな見方や共感
できる部分があり、このしむことができた、というところです。

油絵をかくようになってからみに行ったのは、ゴッホ展が
初です。わたしはあの時期にあの展覧会をみに行くことが
できて、本当にタイミングが良かったなと思いました。

あとは、自分の表現に詰まってしまったときは、
全然自分のイメージとちがうようなものをみることもひとつの
方法だな、とも思いました。

わたしにとっては、ゴッホ展は、この作品がど'う'う'...
というよりも、全作を通していろいろなものを得られた
展覧会でした。大げさかもしれませんが、本当にそう思います。
さっきもかきましたが、あのタイミングでみることができて
本当に良かったです。

提出日：5月28日

私の美術館体験

手書きする

学生番号

8 2 5 0

氏名

佐藤 桃子

美術館名
いくつでも

道立函館美術館

一行目

私が主に行ったことのある美術館は地元の函館にある道立函館美術館です。この美術館では、西洋画家たちの作品や工芸作品、書作品の展示、よく道南生まれや道南で活躍された画家さんの作品が展示されているのが特徴です。(田辺三重松さん、岩船修三さん、瀬戸秀樹さん(以下)) 紹介した中で好きな道南で活躍された画家さんは、瀬戸秀樹さんです。2年前くらいに聞かされていた「道南の美術展」で私は初めて知りました。まず、展示されている数に驚きました。展示されている作品の内、約3分の1〜4分の1くらい展示されていて、インパクトが強く記憶に残っています。瀬戸秀樹さんの作品は、農村や漁船、廃屋を主題とし、緑を中心とした色調で描かれています。緻密に描かれていて、どこか懐かし、寂しいような雰囲気がい私にとっても好きです！ 道立函館美術館で展示されている是非見てほしい画家さんである。もう一人有名な方が田辺三重松さん。風景画をメインに描いていた方で、形を大胆にとり、色彩豊かなのが特徴の方です。この大胆なタッチや色使いが個人的に記憶や印象に残りました。「大雪連峰初夏」や「神威岬」(以下) といった目で見たことのある風景や建物などが田辺三重松さんの描き方によって違った雰囲気で見られるのも、これらの作品の楽しみだと思います。この美術館のもう一つの特徴は触れる鑑賞プログラム、「アートにタッチ」です。展示している彫刻作品の一部を、さりながら鑑賞することができます。解説パネル付きで、触って見る…という一度に二度おいしいツアーです。屋内だけでなく、屋外には、ロダン、ルイワール、ブルーゲル…など様々な彫刻作品が美術館入口付近に展示されています。個人的に滅多に彫刻作品と見る機会がないので、ありがたいツアーです。最後に、個人的に好きな展示会は「ニッポンの字実 ぞくりの魔力」展です。絵画はもちろん、彫刻、工芸作品が展示されていて、中でも印象に残ったのが映像作品でした。日常生活の中で鳴り響く電話や携帯電話の様々な様子が流れていて、同じ電話が鳴っているだけなのに、状況や場所が一つ変わるだけで、日常的な雰囲気から、不思議な空間になったり、恐怖を感じたりと、雰囲気が360°変わる様子が面白かったです。一年間の中で様々なジャンルの展示をしている道立函館美術館、もし函館に行く際は是非足を運んでみてください！

(続けて裏面に書いても良いです)

提出日：5月28日

私の美術館体験

手書きする

学生番号

8 2 5 1

氏名

音田 風羽海

美術館名
いくつでも

札幌芸術の森美術館

私の記憶の中にある一番初めにお訪れた展覧会は、札幌芸術の森で行われた『クリムト、シルー ウィーン世紀末展』である。当時9才であった私はそこで興味のない絵画展という未知の世界に生まれてはじめて連れていかれた。(その前にも絵画展に行ったことがあるかもしれないが、とにかく興味はなかったのか記憶にない。)仕事終わりの母親にながは強引に、(夜はラーメンという誘惑に負けた私は)車に乗せられ芸術の森に向かった。19時過ぎ、気がうくとあたりはま、くらでたくさん緑に囲まれ少しだけ不気味な雰囲気にも包まれていた。車を降りて向かった先には水に浮かぶ、白く光った建物があった。展示されていた作品の細かい気持は無いのだが、金色でキラキラしていた印象がとても強く残っている。その一つの理由としてガラス張りの渡り廊下が深く関係していたと私は思う。たくさんキラキラ光輝く作品を見ているうちに子ども好奇心にあやつられうろちょろしていた私は左右がライトアップされた水がきらめく幻想的な空間にたどりつく。(出入口のため一番最初に通り過ぎていたが展示一直線だったため気づかなかった。)夜も遅く(金曜日だけ2時まで展示をしていた)人っ少なかったため物音もほとんどせず、世界には私一人しかいないようなどこか不安で光輝かしい気持ちになった。展覧会という未知の世界だけだけでなく、はじめて訪ねる芸術の森という空間、いつか歯を磨いて、ベットに入ろうとする時間。幼い私にとってこの条件がどう世界はとてモ衝撃的で強く印象に残るものだった。今でもあのキラキラしてどこか不安な空間は夢に出てくることがある。(もちろん本当の自分が芸術の森を訪ねたときはそのときの不思議な感覚になることがある。同時にあの時の経験は今私を形づくっているものの中で強い力を持っているんだと考える。具体的に私の何に影響を与えたのかはわからないが、あの時のことを思い出すと自然と何となく思えたり、自分は強くなっている、成長している自信をもつことができたり。もし行ったのが夜じゃなかったら、展覧会が芸術の森じゃなかったら。展覧会でどんな作品が展示されるのか、それはとにかく、どんな雰囲気で見られるのか。ベストな空間に展示されてはじめて作品が完成するといっておかしくはないのではないだろうか。

(続けて裏面に書いても良いです)

私の美術館体験

手書きする

学生番号	氏名
8 2 5 2	堀江ゆうき

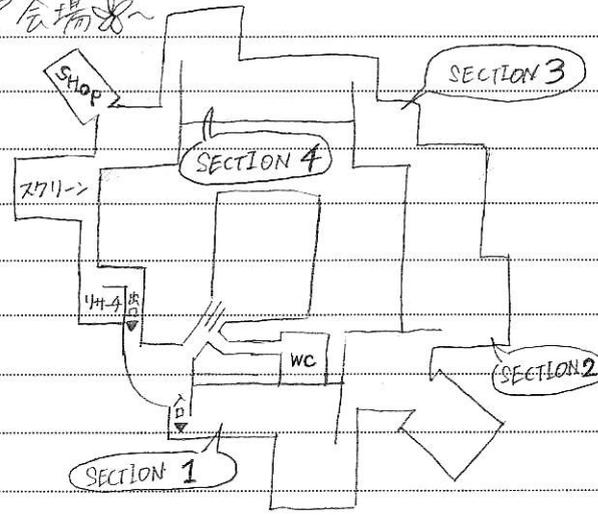
美術館名
いくつでも
森美術館

私は高校2年の頃に森美術館へ行きました。私が行った当時は「宇宙と芸術展」〜カッパ、ダ・ヴィンチ、チームラボ〜というテーマの展覧会が開かれていた。そこで見たいものを紹介して、自分が感じた事、考えたい事を記していきたい。

この展覧会について

宇宙は古来、人間にとって永遠の関心事であり、また信仰と石研究の材源として表現され、沢山の物語を紡ぎ出してきた。この展覧会では隕石や化石、ダ・ヴィンチやガリレオ・ガリレイ等の歴史的な天文学の資料、日本最初のSF物語といえる「竹取物語」、アーティストによるインスタレーションや宇宙開発の最前線に至るまで、古今東西ジャンルを越えて多様な出展物が公開された。「私たちはどこから来てどこへ向かうのか」と探る旅のよう展覧会。

会場

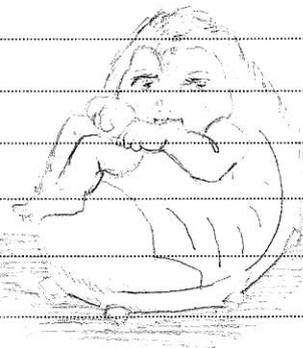


おぼろ

- 4つのセクションに分かれていた。
- SECTION 1 人は宇宙をどう見てきたか (東西の神話・宗教美術作品)
- SECTION 2 宇宙という時空間 (現代美術の作品)
- SECTION 3 新しい生命観 - 宇宙人はいるのか? (遺伝子工学・AIに言及する作品)
- SECTION 4 宇宙旅行と人間の未来 (宇宙開発の最前線作品)

印象に残った作品

《ザ・ルーキー》 1971年 P. ビッチェーニ



とびつぱらな質感を持つ彫刻作品で、可愛い赤ちゃんとのおぼろ、芋虫、ほりねすみのような生物。ビッチェーニは遺伝子工学によってつくられた不可解な生命体を表現。将来、生命科学の発展により、私たちに人間や動物園や図鑑に載っている生物ではない、新生物を象徴的に表現していると感じる作品だ。

提出日：5月28日

私の美術館体験

手書きする

学生番号

氏名

8 2 5 3

山口 美月

美術館名
いくつでも

岩手県立美術館、青森県立美術館、十和田市現代美術館
国立新美術館、宮城県立美術館、お美術館

一行目

私は今までに六つの美術館へ、おたこをかわりまわし、こうやって書き起こしてゆくと、自分が思ったより美術館へ行った回数が増えることがわかりました。今回はその中でも思い出に残った美術館、作品をいくつか紹介したいと思います。

まず青森県立美術館です。奈良美智さんの作品が好きになり連れられてきました。初めて行ったのは私が小学生の頃だったので、奈良美智さんの「あおしり犬」の大きさ、あおしり犬、のどろが空の青さに映えて綺麗だと思ってきました。それに奈良美智さんの作品はたくさんありました。家型の作品や穴を掘る作品、当時私は県立美術館の一角と堅苦しいイメージがあったので、意外に感じました。余談ですが、この美術館にあるカラ「クワ」の箱、食べた「あまのり」を林産りんごのカーキ色、ほしほしに刺さったので、

次は十和田市現代美術館です。やはり現代美術館といっただけあって体験型の作品が多く、次はどんな作品があるのかとワクワクして見ました。栗林隆弘の「ザンブラント」という作品は自分の頭をよじめる穴に突っ込んでみる作品です。覗く、たけてはならない。この頭をよじめる穴で、とても新鮮に感じました。また広場にあげスルツの「ザルム」さんの「ファクトハウス/ファクトリー」では実際に「ファクト」の中に入ることができるのです。私が夏に行った時はハウスの中が暑く、脂肪がからみついてしまったような感じがありました。十和田現代美術は全体的に大空の作品が多かったです。ジェ・ジョンソンの「カラーボックス」、格闘家の「アーツ」、イングス・イデーさんの「ゴースト」など色々ありますが、中でもロン・ミューアの「スタンディング・ウーマン」は血管や筋の感じにかなりリアルで少し恐怖すら感じました。

最後に国立新美術館です。ここには高校の修学旅行で訪れました。当時タリ原が閉っていたのでかなり混雑していました。よく教科書などを見る作品が目の前にあるのがなんと不思議に感じました。この作品でこんな大きさを体験したのかと思いつつ鑑賞したのを覚えています。正直人の波に飲まれてしまっていて見ることができないところもいくつかあったので少し残念だったなと思ったので、また機会があれば是非おたこあつたりのリベンジをしたいと考えています。

(続けて裏面に書いても良いです)

提出日： 5月28日

私の美術館体験

手書きする

学生番号

8 2 5 4

氏名

松宮 康太

美術館名
いくつでも

なし。

一行目

私という人間は生来美術館に行ったことがない。なので今回は、私が美術館に行けなかった（行けなかった）経緯について綴りたいと思う。

私が美術館に行けなかった（行けなかった）理由は2つある。

1つ目は デジタルに生きる身だからである。今やネットの時代で、検索をかけることによっていくらでも情報を入手できる時代だ。高解像度の画像で私たちの目に豊かな色彩をもたらしてくれる。スマホの利便が私たちに与えた奇跡とも呼べる絶好の機会。無駄にしてはいけない。

2つ目は 私が美術とは縁遠い人間だからである。小学生時代は音楽の分野に、中学・高校時代は体育の分野にまぎてきて、美術部に所属していたわりでもない。美術は“落書き”程度にしか嗜んでいない。そんな自分がこの大学に在ることが不思議なほどだ。だから、美術館に行ったところで、初見者の未熟な感想しか抱かないだろう。作者のパスワードを振り下げる事ができない。「絵画の良さを知らない」という表現が適切だろうか。

しかし、この時ではいけないのである。美術を専攻している身として、色々な作品からのインスピレーションは重要である。ネットで見ると異なり、実物は奥行きと厚みがあり、その質感や色合いに魅了される事ができる。単純な感動でも、そこから得られるものが大きいはずである。

一方で私が今最も行きたい場所は、三度の森 シブウ美術館である。まずは自分の興味のあるものから見てみる。美術館のおおよそのニオイを掴むことが肝心だ。一歩の理解のために美術館に行くこともできたが、東京の方まで行く時間とお金は少ない。北海道内の美術館は自分の興味・関心のある館は無い。平は義務感と不安状態で美術館に行っても、内容の濃いレポートを書けるとは到底思えない。自分の行動のスタイルが確まり、興味がクリアになった時は美術館に行ってみようと思う。

(続けて裏面に書いても良いです)

提出日: 5月28日

私の美術館体験

手書きする

学生番号

氏名

8 2 5 5

成田 佑香

美術館名
いくつでも

道立帯広美術館, 道立近代美術館, 道立旭川美術館

一行目

近代美術館, 旭川美術館と、行ったことはありますが、私は、地元である帯広の
"帯広美術館"での体験について書きたいと思います。

地元を出る最後に行った際、「FACE / わたしとあなた」という展示を見ました。

彫刻や人形作品、動画... 油絵と、幅広く、また、数多くの作品があり、ポスターを飾った
舟越 桂さんの彫刻(木)作品をメインと置いたのがこの展示の中で、私は
仮面の展示に強く興味を持ちました。

アフリカン・マスクと呼ばれる作品は、名の通り、アフリカ、特に、村(部族)で使われていたもので、
どこか人のものか、理解できて、今まで聞いたことのない部族名とその仮面が並んであり、
大多数が木で作られている。また、機械や便利さはいささか欠けている自然さ。

また、各地域の宗教(信じているもの)の念(?)を感じました。同じ昔のもので、ヨーロッパなどで
使われていた豪華な仮面とは違うが、アフリカン・マスクは、その真逆の位置する
作品(その)ではあるかと考えられる。

マスク自体が、人の顔のようではあるのに、どこかこの世のものではないヒト(または生物)にも
感じ取る点から、展示室の説明、解説にも書かれていたように、自然や精霊に対して
崇拜を解きさるがた部族の思考、その対象を具現化したのが仮面であるので、
やはり、たが木を彫って作りあげたものでは無く、邪悪さや神、自然などへの強い
念も含まれている。その仮面に、私は、誰かおかしな部族の中の人か、作りあげた
仮面(作られた仮面だと認識(ではいけないと思ふ)が、ショーケースや壁に飾られている
のは(今では)自然さから離れてしまっているのではあるかと思ひました。逆に、(アフリカの)

はるか昔と出会わせてくれた所には単純に感激を感じました。

1つと見た時に、気持ち悪さや恐さ、また、早く通り過ぎたいと思わせてしまう所には、
確かに悪いものの侵入を阻止させるために作られたという理由を察して、そうすると
展示を見つけた私達は皆、彼らからした"悪いもの"だと思われているのではあるかと
考えてしまいます。便利さ、近代さの多い時代は、(古くは)先のとがっているもの1つで、
作りあげた仮面が、現代でも私たちにある程度の距離をとらせてしまう(中には
面白過ぎて近づく人々いる)その効力には、長い年月と、その過去が見えようとする気がしました。

現在は、「FACILITATE」という写真展を行っているようで、見てみたいとおもいました。

(続けて裏面に書いても良いです)

提出日: 5月28日

私の美術館体験

手書きする

学生番号

氏名

8 2 5 7

長沼 京香

美術館名
いくつでも

北海道教育大学旭川校書道研究室
春季書作展

私はあまり、美術館に行、た、こと、行く、た、こと、や、あ、ても、学校の行事に
 いて、気候が、金、ではない、で、あ、か、。ほ、ん、と、あ、り、ま、せ、ん、。その中、でも、気候に
 残、て、い、る、展、覧、会、は、教、育、大、学、旭、川、校、書、道、研、究、室、さ、ん、の、春、季、
 書、作、展、で、す、。こ、れ、は、今、月、の、2、日、に、岩、見、沢、校、の、書、道、研、究、室、の
 2、年、目、の、先、輩、市、と、1、年、目、の、会、員、で、行、き、ま、し、た、。
 会、場、に、倒、着、し、た、ら、ま、す、旭、川、校、さ、ん、の、パ、フ、ォ、ー、マ、ー、ス、を、拜、見、し
 ま、し、た、。4、名、ほ、ん、と、1、人、で、作、品、を、完、成、さ、せ、て、い、て、あ、ん、だ、に
 人、に、固、ま、れ、て、い、る、の、に、堂、々、と、書、け、る、姿、が、こ、れ、も、か、こ、い、い、た、と、
 思、い、ま、し、た、。私、の、友、達、も、可、か、く、感、動、し、て、お、り、ま、し、た、。
 私、は、特、に、同、じ、1、年、目、の、人、達、の、作、品、を、よく、見、ま、し、た、。
 牛、柳、造、像、記、を、臨、書、し、て、い、た、1、年、目、の、市、の、作、品、が、ど、の、作、品、よ、り
 も、感、動、し、ま、し、た、。牛、柳、造、像、記、の、特、徴、と、あ、る、縦、長、な、文、字、が、
 と、こ、も、表、現、で、き、て、い、ま、し、た、。線、も、1、つ、1、つ、と、い、わ、い、て、全、体、的、に、上品
 な、作、品、と、な、っ、て、お、り、ま、し、た、。名、前、も、上、手、だ、ら、な、と、思、っ、て、い、た、ら、こ、の
 市、は、私、達、が、高、校、2、年、生、の、時、の、高、文、連、で、全、国、へ、行、っ、た、市、で、し、た、。
 私、は、高、校、2、年、生、の、時、か、ら、その、市、の、存、在、も、知、っ、て、い、て、こ、れ、
 懂、か、て、い、た、の、で、再、び、こ、の、市、の、書、く、作、品、に、出、会、え、て、本、当、に
 嬉、し、か、っ、た、し、。驚、き、ま、し、た、。他、の、1、年、目、の、作、品、で、鄭、羲、下、碑、を
 書、い、て、い、た、市、の、作、品、は、私、の、苦、手、な、向、性、ち、く、な、字、も、た、ん、た、ん、と
 リ、ズ、ミ、カ、ハ、に、書、い、て、い、る、よ、う、な、作、品、で、し、た、。た、た、し、右、折、り、か、
 ら、た、く、ま、り、く、な、っ、て、い、る、よ、う、に、感、じ、ま、し、た、。こ、れ、も、私、が、ま、だ、練、習、中、の
 「し、な、い、ハ、ネ、の、仕、事、だ、ら、な、と、こ、れ、も、ま、れ、い、て、可、か、く、と、思、い、ま、し、た、。
 1、年、目、の、書、く、作、品、だ、け、で、し、た、ら、な、く、三、年、目、の、市、が、書、か、れ、て、い、た、。
 開、通、環、行、道、刻、石、を、見、て、私、も、書、い、て、み、た、と、思、い、今、千、か、ら、じ、つ、と、し、て
 い、ま、の、こ、の、作、品、は、こ、れ、も、潤、渴、の、変化、が、激、しい、為、墨、が、入、り、ま、り、と、
 つ、ぶ、れ、て、い、ま、い、か、れ、ま、り、と、見、え、は、く、く、す、い、ま、う、の、で、こ、れ、も、書、く、の、に、苦、痛、し、ま、す、。
 旭、川、校、の、春、季、展、で、思、っ、た、こ、の、は、1、年、目、が、ま、だ、入、学、し、た、は、か、り、た、ら、に、
 全、紙、で、素、直、な、作、品、を、完、成、さ、せ、て、い、て、こ、れ、も、尊、敬、し、ま、し、た、。又、書、い、て、み、た
 い、作、品、や、自、分、へ、の、課、題、も、見、つ、け、る、こ、の、で、行、っ、た、良、か、い、と、思、い、ま、し、た、。
 (続けて裏面に書いても良いです)